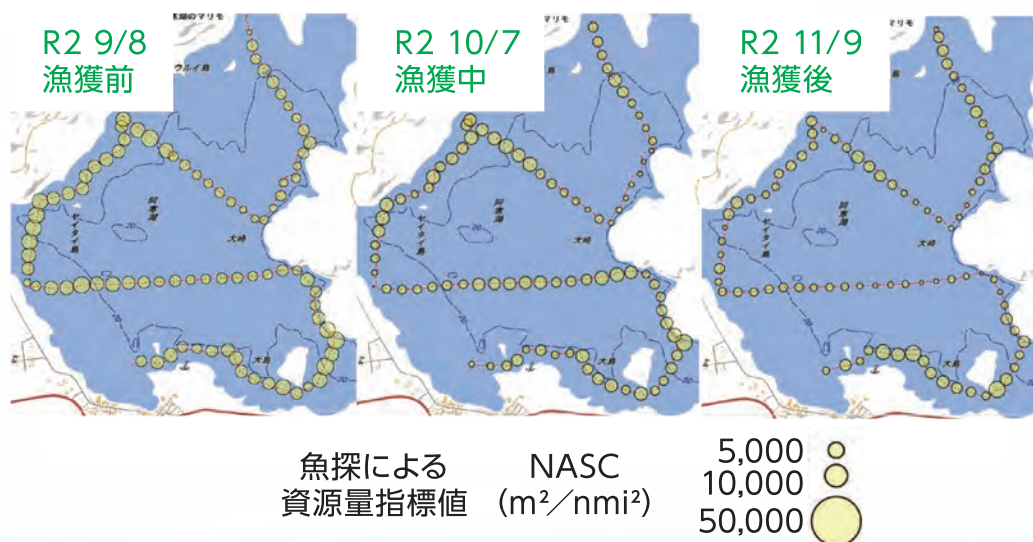
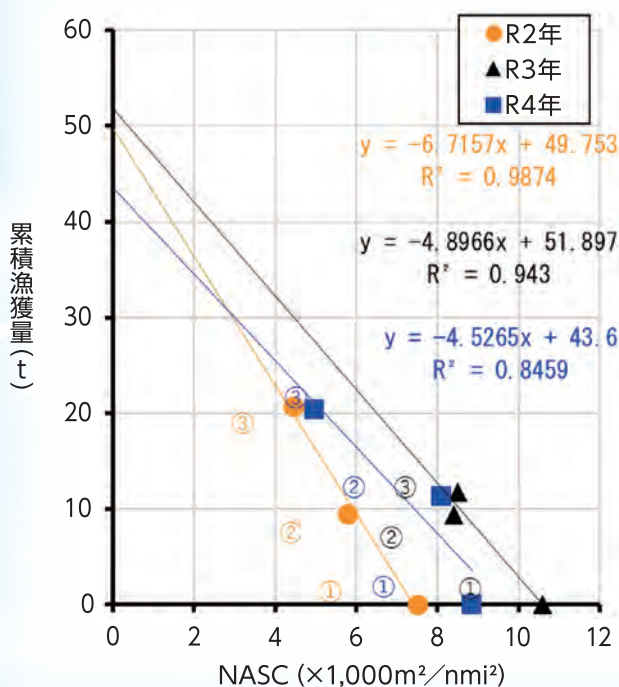


③魚探による資源推定

湖のワカサギの資源状況がわかる？



- ワカサギ漁の始まる前、中期、終漁後に魚探調査を実施し、累積漁獲量と資源量推定指標値 (NASC) との関係を調べました (図12)。



- 結果、ワカサギの累積漁獲量が多くなるほど、魚探反応 (NASC) も小さくなりました (図13)。

- 魚探調査から累積漁獲量とNASCの回帰式を作成し、ワカサギ初期資源量を推定することができました。阿寒湖ではこの推定値を用いて資源管理を行っています。

③魚探による資源推定

調査精度を維持して省力化!

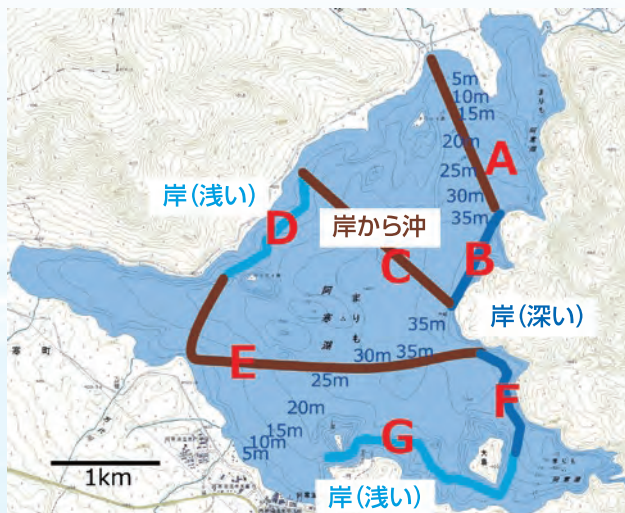


図14 区分化した調査コース (全長14km)

- 資源量推定に用いたデータを調査コースの特徴に応じて区分しました (A～G、図14)。
- A～G、個々のNASCを算出し、隣接した区間のデータを組合わせて資源量推定を行いました。

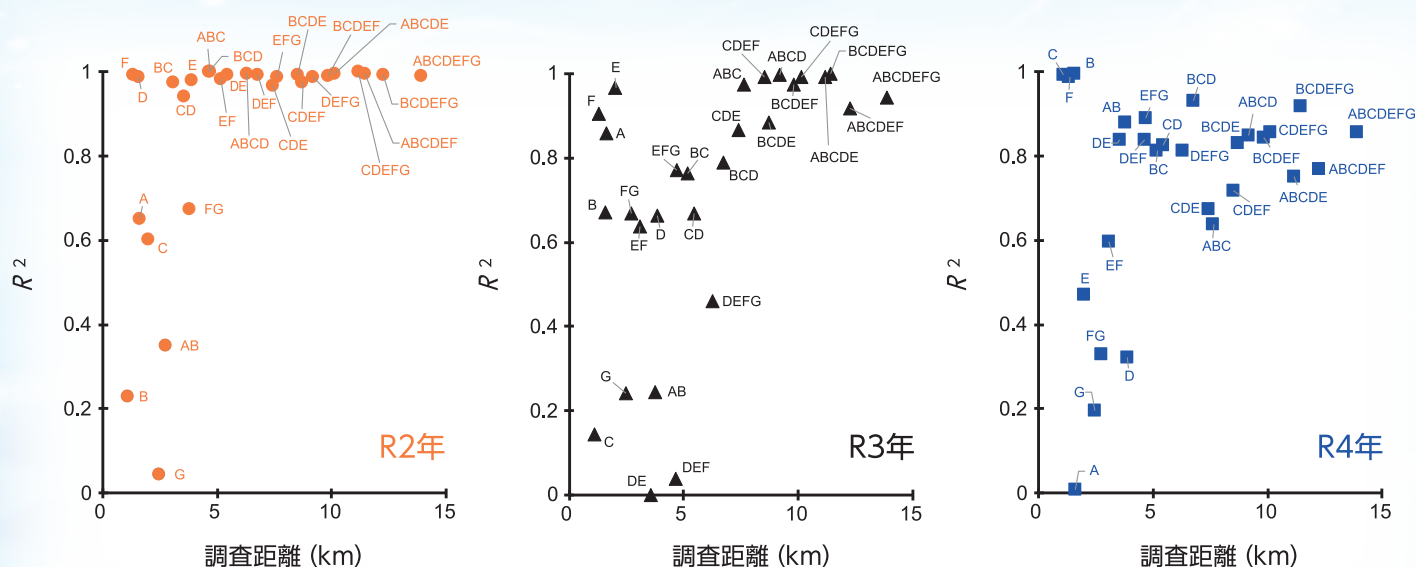


図15 調査区間の組合せと資源推定値へのあてはまり (R^2 値)

- 特徴的な地点をいくつか組合わせることで R^2 値は高くなり、全てのデータを用いずとも資源量が推定可能であることが分かりました (図15)。
- 湖沼の特徴を把握し、調査コースを事前に選定することで調査距離の短縮が可能であり、労力を軽減することが出来ます。